

## 物理解答用紙

(標準的な正答例であり、この他にも正解となる解答はあります。)

1

[説明と計算式]

求める速さ  $v_0$ 、最高点での速さ  $v_t$  とおくと、力学的エネルギー保存より、

$$\frac{1}{2}mv_t^2 + mg \cdot 4R = \frac{1}{2}mv_0^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

問 1

また、最高点での運動方程式より、

$$\frac{mv_t^2}{2R} = mg \rightarrow v_t^2 = 2gR$$

$$\therefore v_t = \sqrt{2gR} \quad \text{これを \textcircled{1} へ代入}$$

$$\frac{1}{2}m \cdot 2gR + mg \cdot 4R = \frac{1}{2}mv_0^2$$

$$v_0^2 = 10gR \rightarrow \therefore v_0 = \sqrt{10gR}$$

評  
点答  $\sqrt{10gR}$ 

問 2

[説明と計算式]

点 B での速さ  $v_B$  として、力学的エネルギー保存の式は、

$$\frac{1}{2}m \cdot 10gR = \frac{1}{2}mv_B^2 + mg \cdot 2R(1 - \cos\theta) \quad \dots \textcircled{1}$$

張力の大きさを  $T$  として運動方程式をかくと、

$$\frac{mv_B^2}{2R} = T - mg \cos\theta \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} \text{より } 5gR = \frac{1}{2}v_B^2 + 2gR(1 - \cos\theta)$$

$$v_B^2 = 6gR + 4gR \cos\theta \rightarrow \therefore v_B = \sqrt{2gR(3 + 2 \cos\theta)}$$

$$\text{これを \textcircled{2} へ代入 } \frac{m}{2R}2gR(3 + 2 \cos\theta) = T - mg \cos\theta$$

$$T = 3mg + 2mg \cos\theta + mg \cos\theta = 3mg(1 + \cos\theta)$$

答 速さ:  $\sqrt{2gR(3 + 2 \cos\theta)}$  張力:  $3mg(1 + \cos\theta)$ 

問 3

[説明と計算式]

点 C を通るときの速さ  $v_C$  とおく。

力学的エネルギー保存より、

$$\frac{1}{2}mv_C^2 + mg \cdot 2R = \frac{1}{2}m \cdot 10gR$$

$$v_C^2 = 10gR - 4gR = 6gR$$

$$\therefore v_C = \sqrt{6gR}$$

$$\text{直前の張力の大きさは、 } \frac{mv_C^2}{2R} = \frac{m}{2R}6gR = 3mg$$

$$\text{直後の張力の大きさは、 } \frac{mv_C^2}{R} = \frac{m}{R}6gR = 6mg$$

答 直前の張力: 3mg 直後の張力: 6mg

問 4

[説明と計算式]

反発係数  $\frac{1}{2}$ 、衝突前後の a、b の速さをそれぞれ  $v_a$ 、 $v_b$ 、 $v'_a$ 、 $v'_b$  とおくと、

$$\frac{1}{2} = -\frac{v'_a - v'_b}{v_a - v_b} \quad \text{今 } v_b = 0 \text{ より}$$

$$= -\frac{v'_a - v'_b}{v_a} \rightarrow v'_b = \frac{v_a}{2} + v'_a \quad \dots \textcircled{1}$$

 $v_a$  は力学的エネルギー保存より、

$$\frac{1}{2}m \cdot 10gR = \frac{1}{2}mv_a^2 + mgR$$

$$v_a^2 = 8gR \rightarrow \therefore v_a = \sqrt{8gR} \quad \dots \textcircled{2}$$

また、運動量保存則より、

$$mv_a + 2m \cdot 0 = mv'_a + 2mv'_b \rightarrow v'_a = v_a - 2v'_b \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{2}、\textcircled{3} \text{を \textcircled{1} へ代入して、} v'_b = \frac{1}{2}\sqrt{8gR} + \sqrt{8gR} - 2v'_b$$

$$3v'_b = 3\sqrt{8gR} \rightarrow \therefore v'_b = \sqrt{2gR}$$

$$\text{これを \textcircled{3} へ代入 } v'_a = \sqrt{8gR} - 2\sqrt{2gR} = 0$$

答 小球aの速さ: 0 小球bの速さ:  $\sqrt{2gR}$ 

問 5

[説明と計算式]

まず点 E → 点 F の時間  $t_1$  は、

$$\frac{1}{2}gt_1^2 = R \text{ より } t_1 = \sqrt{\frac{2R}{g}}$$

点 F に衝突したときの鉛直方向の速さは、 $gt_1 = \sqrt{2gR}$ 

衝突直後の鉛直方向の速さは、

$$\frac{1}{2}\sqrt{2gR} = \sqrt{\frac{gR}{2}}$$

$$\text{点 F } \rightarrow \text{点 G の時間 } t_2 \text{ は、 } \sqrt{\frac{gR}{2}} = gt_2 \text{ より } t_2 = \sqrt{\frac{R}{2g}}$$

点 E → 点 G の水平距離は、等速運動より、

$$\left(\sqrt{\frac{2R}{g}} + \sqrt{\frac{R}{2g}}\right) \cdot \sqrt{2gR} = \frac{\sqrt{4R} + \sqrt{R}}{\sqrt{2g}} \sqrt{2gR} = 3R$$

$$\text{鉛直距離は } \frac{1}{2}gt_2^2 = \frac{R}{4} \quad \text{点 A } \rightarrow \text{点 G の水平距離は } 2R$$

$$\text{鉛直方向の距離: } \frac{R}{4}$$

小  
計

## 物 理 解 答 用 紙

(標準的な正答例であり、この他にも正解となる解答はあります。)

2

〔説明と計算式〕

1回の衝突によって1個の分子が壁Aから受ける力積は、次式のように得られる。

$$m \times (-v_x) - mv_x = -2mv_x$$

すなわち、作用・反作用の法則から、壁Aが受ける力積は  $2mv_x$  となる。答  $2mv_x$ 

問 1

〔説明と計算式〕

分子と壁Aとの衝突は弾性衝突であるため、衝突前後で速度の大きさは変わらない。  
そのため、壁Aがこの分子から  $2L/v_x$  の周期で大きさ  $2mv_x$  の力積を受ける。

問 2

すなわち、時間  $t$  の間に壁Aと  $v_x t / 2L$  回衝突するので、この分子が時間  $t$  の間に壁Aに与える力積の合計  $I_x$  は、

$$I_x = 2mv_x \times \frac{v_x t}{2L} = \frac{mv_x^2 t}{L}$$

$$\text{答 } I_x = \frac{mv_x^2 t}{L}$$

問 3

〔説明と計算式〕

1個の分子がもつ運動エネルギーを  $k$  とし、 $x, y, z$  成分に分けて記述すると、

$$k = \frac{mv_x^2}{2} + \frac{mv_y^2}{2} + \frac{mv_z^2}{2}$$

問 2 で求めた関係から  $I_x, I_y, I_z$  を用いて上式を表すと、

$$k = \frac{L}{2t} (I_x + I_y + I_z)$$

$$\text{答 } \frac{L}{2t} (I_x + I_y + I_z)$$

問 4

〔説明と計算式〕

容器内のすべての分子が壁に与える力積の合計は、気体の圧力  $p$  が与える力積と一致することから、

$$pL^2 t = \sum I_x = \sum I_y = \sum I_z \quad \therefore 3pL^2 t = \sum I_x + \sum I_y + \sum I_z$$

のような関係が得られる。ここで、容器内のすべての分子がもつ運動エネルギーを  $K$  とすると、

$$K = \sum k = \frac{L}{2t} (\sum I_x + \sum I_y + \sum I_z) \quad \text{すなわち, } K = \frac{3}{2} pL^3$$

$$\text{答 } \frac{3}{2} pL^3$$

問 5

(1) 〔説明と計算式〕

気体定数を  $R$ 、温度を  $T$ 、アボガドロ定数を  $N_A$  とすると、分子がもつ運動エネルギーの平均値は、

$$\frac{1}{2} m \bar{v}^2 = \frac{3}{2} \frac{RT}{N_A}$$

すなわち、窒素分子の二乗平均速度  $\sqrt{\bar{v}^2}$  は、1 mol当たりの質量を  $M (= mN_A)$  とすると、

$$\sqrt{\bar{v}^2} = \sqrt{\frac{3RT}{M}} = \sqrt{\frac{3 \times 8.3 \times 280}{2.8 \times 10^{-2}}} = \sqrt{24.9 \times 10^4} \approx \sqrt{25 \times 10^4} = 5.0 \times 10^2 \text{ m/s}$$

$$\text{答 } 5.0 \times 10^2 \text{ m/s}$$

(2) 〔説明と計算式〕

窒素中の音速を  $V$ 、振動数を  $v$ 、波長を  $\lambda$  とすると、 $V = v \times \lambda = 440 \times 0.78 = 343 \dots \approx 343 \text{ m/s}$ 

よって、窒素中の音速に対する窒素分子の二乗平均速度の比は、

$$\frac{5.0 \times 10^2}{343} = 1.45 \dots \approx 1.5$$

$$\text{答 } 1.5 \text{ 倍}$$

小  
計参考：音速の理論値（2原子分子） $V_r = \sqrt{\frac{7RT}{5M}}$        $\sqrt{\bar{v}^2}/V_r = \sqrt{\frac{3 \times 5}{7}} \approx 1.46$

## 物理 解 答 用 紙

(標準的な正答例であり、この他にも正解となる解答はあります。)

3

## [説明と計算式]

$0 < x < L$  の領域：真空中の電場の強さは、 $E_0 = 4\pi k_0 Q/S = Q/\epsilon_0 S$  である ( $k_0$ : 真空中のクーロン法則の比例定数)。電位は、 $E$  と  $x$  が反対方向、 $V(0)=0$  であるため、 $V_0 = E_0 x = Qx/\epsilon_0 S$  で与えられる。

問 1

答 電場の強さ :  $\frac{Q}{\epsilon_0 S}$

電位 :  $\frac{Q}{\epsilon_0 S} x$

## [説明と計算式]

$0 < x < t_1$  の領域：真空中のため、 $E$  と  $V$  は問 1 の結果と同じである。

$t_1 \leq x < t_1+t$  の領域：金属内部の電場はゼロである ( $E = 0$ )。 $V(t_1)$  が  $0 < x < t_1$  の領域の値と一致し、 $V = Qt_1/\epsilon_0 S$  である。

問 2

$t_1+t \leq x < L$  の領域：真空中のため、 $E$  は問 1 の結果と同じである。従って、電位は、 $V = Qx/\epsilon_0 S + V'$  として与えられる。また、 $V(t_1+t)$  が  $t_1 \leq x < t_1+t$  領域の値と一致することから、 $V(t_1+t) = Qt_1/\epsilon_0 S + V' = Qt_1/\epsilon_0 S \rightarrow V = Qx/\epsilon_0 S - Qt/\epsilon_0 S$  になる。

答  $0 < x < t_1 : \frac{Q}{\epsilon_0 S} x$        $t_1 \leq x < t_1+t : \frac{Q}{\epsilon_0 S} t_1$        $t_1+t \leq x < L : \frac{Q}{\epsilon_0 S} (x-t)$

## [説明と計算式]

$0 < x < t_1$  の領域：真空中のため、 $E$  と  $V$  は問 1 の結果と同じである。

$t_1 \leq x < t_1+t$  の領域：誘電率が  $\epsilon$  であるため、 $E = Q/\epsilon S$  になる。電位は  $V = Qx/\epsilon S + V'$  として与えられる。

また、 $V(t_1)$  の値が  $0 < x < t_1$  の領域の値と一致することから、 $V(t_1) = Qt_1/\epsilon S + V' = Qt_1/\epsilon_0 S \rightarrow V = \frac{Qx}{\epsilon S} + \frac{Qt_1}{S} \left( \frac{1}{\epsilon_0} - \frac{1}{\epsilon} \right) = \frac{Qx}{\epsilon S} + \frac{Qt_1}{S} \frac{\epsilon - \epsilon_0}{\epsilon_0 \epsilon}$

問 3

$t_1+t \leq x < L$  の領域：真空中のため、 $E$  は問 1 の結果と同じである。電位は  $V = \frac{Q}{\epsilon_0 S} x + V'$  として与えられる。

また、 $V(t_1+t)$  が  $t_1 \leq x < t_1+t$  領域の値と一致することから、 $V(t_1+t) = \frac{Q}{\epsilon_0 S} (t_1+t) + V' = \frac{Q}{\epsilon S} (t_1+t) + \frac{Q}{S} \left( \frac{1}{\epsilon_0} - \frac{1}{\epsilon} \right) t_1 \rightarrow V = \frac{Q}{\epsilon_0 S} x - \frac{Q}{S} \left( \frac{1}{\epsilon_0} - \frac{1}{\epsilon} \right) t = \frac{Q}{\epsilon_0 S} x - \frac{Qt}{S} \frac{\epsilon - \epsilon_0}{\epsilon_0 \epsilon}$  になる。

答  $0 < x < t_1 : \frac{Q}{\epsilon_0 S} x$        $t_1 \leq x < t_1+t : \frac{Q}{\epsilon_0 S} t_1 - \frac{Q}{S} \frac{\epsilon - \epsilon_0}{\epsilon_0 \epsilon} t$        $t_1+t \leq x < L : \frac{Q}{\epsilon_0 S} x - \frac{Q}{S} \frac{\epsilon - \epsilon_0}{\epsilon_0 \epsilon} t$

## [説明と計算式]

$Q = CV \rightarrow C = Q/V$  である。 $V$  は、問 2 と問 3 の  $V(L)$  を用いる。 $C_0 = \epsilon_0 S/L \rightarrow \epsilon_0 S = C_0 L$  である。

問 4

(イ) の場合：問 2 から  $V(L) = \frac{Q}{\epsilon_0 S} (L-t)$ 。 $C = \frac{Q}{V(L)} = \frac{LC_0}{L-t}$

(ウ) の場合：問 3 から  $V(L) = \frac{Q}{S} \frac{\epsilon_0 t + \epsilon(L-t)}{\epsilon \epsilon_0}$ 。 $C = \frac{Q}{V(L)} = \frac{\epsilon LC_0}{\epsilon_0 t + \epsilon(L-t)}$

答 (イ) :  $\frac{LC_0}{L-t}$       (ウ) :  $\frac{\epsilon LC_0}{\epsilon_0 t + \epsilon(L-t)}$

## [説明と計算式]

$U = \frac{1}{2} QV = \frac{1}{2} CV^2 = \frac{Q^2}{2C}$  である。 $C$  は、問 4 の結果を用いる。

問 5

(イ) の場合： $U = \frac{Q^2}{2C} = \frac{Q^2 L-t}{2LC_0}$ ， (ウ) の場合： $U = \frac{Q^2}{2C} = \frac{Q^2 \epsilon_0 t + \epsilon(L-t)}{2\epsilon LC_0}$

答 (イ) :  $\frac{Q^2 L-t}{2LC_0}$       (ウ) :  $\frac{Q^2 \epsilon_0 t + \epsilon(L-t)}{2\epsilon LC_0}$

小  
計